

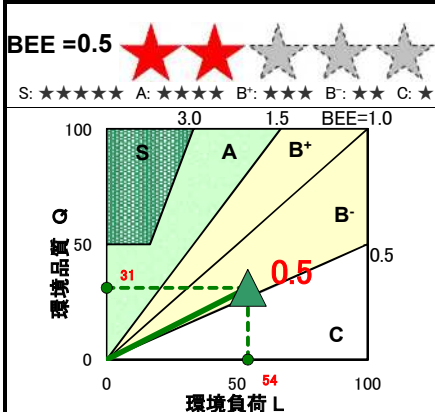
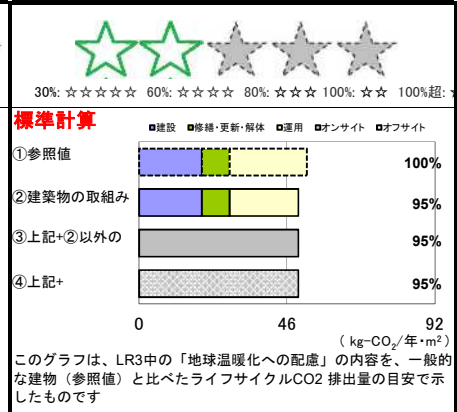
川崎市建築物環境配慮制度受付番号 23031

建築物名称	(仮称)東横化学株式会社 A棟新工場計画
建築主	東横化学株式会社 代表取締役社長 加藤 高広
建築物の所在地	川崎市中原区中丸子165-1,165-6,1273-1,1273-2,1273-3,1274-1,1275-1,1275-4,1276-1,1276-3,1276-4
設計者氏名、建築士事務所名	横井 貴 大和ハウス工業株式会社 南関東建築 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	2,285.75㎡
用途	工場(自動車修理工場を除く)
構造	鉄骨造
階数	地上3階
工事完了年月	令和6年11月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

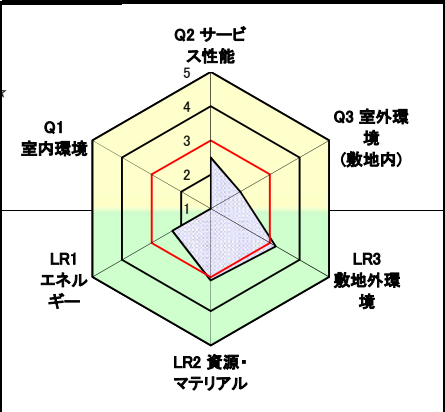
1-1 建物概要			1-2 外観	23031
建物名称	(仮称)東横化学株式会社 A棟新工場計画		階数	地上3階、地下0階
建設地	神奈川県川崎市中原区中丸子1-155-4 1373-1 1373-2 1374-1 1375-1 1375-4 1376-1 1376-2 1376-4		構造	S造
用途地域	工業地域、準防火地域		平均居住人員	140 人
地域区分	6地域		年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	工場		評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年11月	竣工	評価の実施日	2023年11月7日
敷地面積	2,268 m ²		作成者	横井貴
建築面積	811 m ²		確認日	2023年11月8日
延床面積	2,286 m ²		確認者	横井貴

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

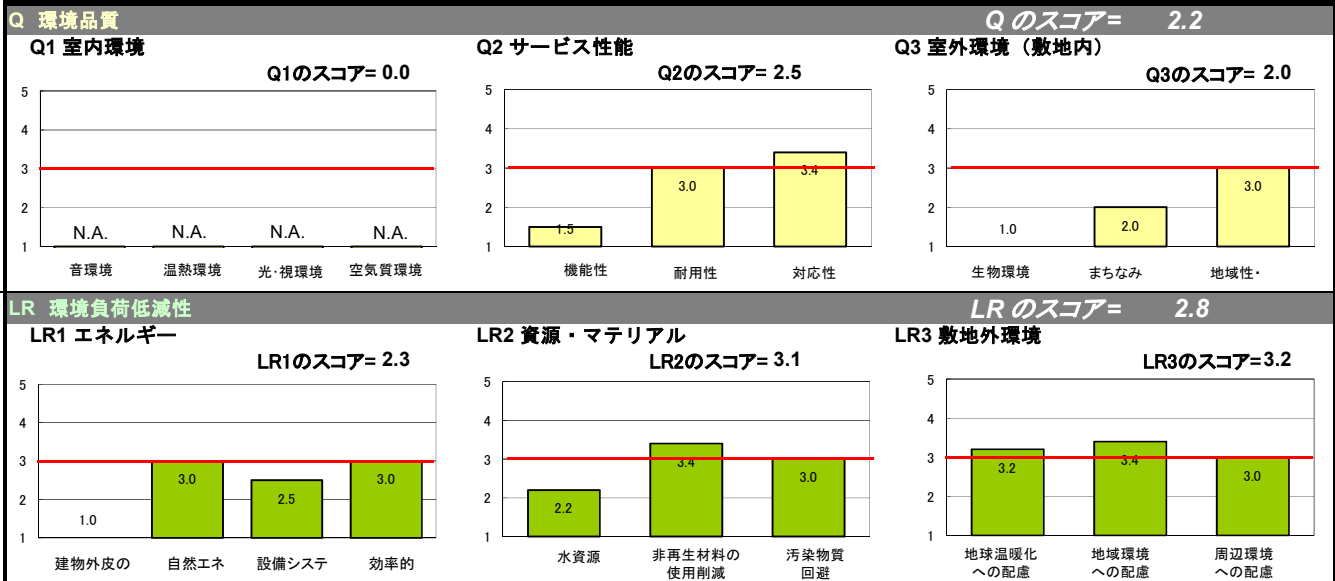
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)



2-4 中項目の評価(バーチャート)



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-川崎2023(v.4.0)

(仮称)東横化学株式会社 A棟新工機計画

23031

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 2 まちなみ・景観への配慮 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合している。 高温排熱の放出部を設置しない。	1.6/4.3	1.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	2.6
Q-1 ■ 室内環境対策 2 2.1 2.1.2 外皮性能 3 3.1 3.1.3 屋光利用設備 3.2 3.2.1 屋光制御		0.0/0.0	-
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合している。 高温排熱の放出部を設置しない。	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用		2.4/5.0	2.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減 3 3.2 フロン・ハロンの回避	ビニル系床材を用いている。	2.9/4.7	3.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.3
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 部品・部材の耐用年数	給排水管の更新必要間隔を40年以上としている。	0.3/0.5	3.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 1 水資源保護 2 非再生性資源の使用量削減	ビニル系床材を用いている。	2.5/4.0	3.1
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	駐車スペースや出入口幅を確保をしている。	0.2/0.4	3.0
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.4
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策 1 生物環境の保全と創出 3 3.2 敷地内温熱環境の向上	川崎市緑化指針の基準に適合している。 高温排熱の放出部を設置しない。	0.8/2.3	1.7
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用		2.4/5.0	2.4
LR-3 ■ 敷地外環境対策 2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **2.6**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点 注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策 2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.1	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策 2 2.2 既存建築躯体等の継続利用 2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		0.8/1.3	3.0
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策 1 建物外皮の熱負荷抑制 2 自然エネルギーの利用 3 設備システムの高効率化 4 効率的運用		2.4/5.0	2.4

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目	重点項目				環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
	G	W	R	H						
Q 建築物の環境品質										2.2
Q1 室内環境							-		-	-
1 音環境						-	-		-	-
1.1 室内騒音レベル						-	-		-	
1.2 遮音						-	-		-	
1 開口部遮音性能						-	-		-	
2 界壁遮音性能						-	-		-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						-	-		-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						-	-		-	
1.3 吸音						-	-		-	
2 温熱環境						-	-		-	-
2.1 室温制御						-	-		-	
1 室温						-	-		-	
2 外皮性能						-	-		-	
3 ゾーン別制御性						-	-		-	
2.2 湿度制御						-	-		-	
2.3 空調方式						-	-		-	
3 光・視環境						-	-		-	-
3.1 昼光利用						-	-		-	
1 昼光率						-	-		-	
2 方位別開口						-	-		-	
3 昼光利用設備						-	-		-	
3.2 グレア対策						-	-		-	
1 昼光制御						-	-		-	
3.3 照度						-	-		-	
3.4 照明制御						-	-		-	
4 空気質環境						-	-		-	-
4.1 発生源対策						-	-		-	
1 化学汚染物質						-	-		-	
4.2 換気						-	-		-	
1 換気量						-	-		-	
2 自然換気性能						-	-		-	
3 取り入れ外気への配慮						-	-		-	
4.3 運用管理						-	-		-	
1 CO ₂ の監視						-	-		-	
2 喫煙の制御						-	-		-	
Q2 サービス性能						-	0.43	-	-	2.5
1 機能性						1.5	0.40		-	1.5
1.1 機能性・使いやすさ						-	-		-	
1 広さ・収納性						-	-		-	
2 高度情報通信設備対応						-	-		-	
3 バリアフリー計画						-	-		-	
1.2 心理性・快適性						1.0	0.50		-	
1 広さ感・景観						-	-		-	
2 リフレッシュスペース						-	-		-	
3 内装計画						1.0	1.00	1.0	-	
1.3 維持管理						2.0	0.50		-	
1 維持管理に配慮した設計						2.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保						2.0	0.50		-	
2 耐用性・信頼性						3.0	0.30		-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数						3.4	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.20		-	
2 外壁仕上材の補修必要間隔						3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上材の更新必要間隔						3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						5.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔						3.0	0.20		-	
2.4 信頼性						2.8	0.20		-	
1 空調・換気設備						3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備						2.0	0.20		-	
3 電気設備						3.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法						3.0	0.20		-	
5 通信・情報設備						3.0	0.20		-	
						多様の通信手段を図っている。				

3	対応性・更新性									3.4	0.30	-	-	3.4
	3.1 空間のゆとり									4.6	0.30	-	-	
	1 階高のゆとり								すべての階高が3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ								壁長さ比率=0.19	4.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり								—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性								—	3.0	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性								—	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性								—	3.0	0.20	-	-	
	3 電気配線の更新性								—	3.0	0.10	-	-	
	4 通信配線の更新性								—	3.0	0.10	-	-	
	5 設備機器の更新性								—	3.0	0.20	-	-	
	6 バックアップスペースの確保								—	3.0	0.20	-	-	
	Q3 室外環境(敷地内)										-	0.57	-	-
1	生物環境の保全と創出				G	W		H	川崎市緑化指針の基準に適合している。	1.0	0.30	-	-	1.0
2	まちなみ・景観への配慮				G				—	2.0	0.40	-	-	2.0
3	地域性・アメニティへの配慮								—	3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 地域性への配慮、快適性の向上								—	3.0	0.50	-	-	
	3.2 敷地内温熱環境の向上				G	W		H	高温排熱の放出部を設置しない。	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性											-	-	-	2.8
LR1 エネルギー										-	0.40	-	-	2.3
1	建物外皮の熱負荷抑制					W		H	—	1.0	0.20	-	-	1.0
2	自然エネルギー利用					W		H	—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化					W		H	—	2.5	0.50	-	-	2.5
4	効率的運用								—	3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価								—	3.0	1.00	-	-	
	4.1 モニタリング					W		H	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2 運用管理体制					W		H	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価								—	-	-	-	-	
	4.1 モニタリング					W		H	—	-	-	-	-	
	4.2 運用管理体制					W		H	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル										-	0.30	-	-	3.1
1	水資源保護					W		R	—	2.2	0.20	-	-	2.2
	1.1 節水								—	1.0	0.40	-	-	
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用								—	3.0	0.60	-	-	
	1 雨水利用システム導入の有無								—	3.0	0.70	-	-	
	2 雑排水等利用システム導入の有無								—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減								—	3.4	0.60	-	-	3.4
	2.1 材料使用量の削減					W		R	—	3.0	0.11	-	-	
	2.2 既存建築躯体等の継続使用					W		R	—	3.0	0.22	-	-	
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					W		R	—	3.0	0.22	-	-	
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					W		R	ビニル系床材を用いている。	3.0	0.22	-	-	
	2.5 持続可能な森林から産出された木材					W		R	—	-	-	-	-	
	2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み					W		R	LGS下地、OAフロアを採用している。	5.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避								—	3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1 有害物質を含まない材料の使用								—	3.0	0.30	-	-	
	3.2 フロン・ハロンの回避								—	3.0	0.70	-	-	
	1 消火剤					W			—	-	-	-	-	
	2 発泡剤(断熱材等)					W			—	3.0	0.50	-	-	
	3 冷媒					W			—	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境										-	0.30	-	-	3.2
1	地球温暖化への配慮					W			—	3.2	0.33	-	-	3.2
2	地域環境への配慮								—	3.4	0.33	-	-	3.4
	2.1 大気汚染防止								燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	-	
	2.2 温熱環境悪化の改善				G	W		H	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3 地域インフラへの負荷抑制								—	2.7	0.25	-	-	
	1 雨水排水負荷低減						R		—	3.0	0.25	-	-	
	2 汚水処理負荷抑制						R		—	3.0	0.25	-	-	
	3 交通負荷抑制						R		駐車スペースや出入口幅を確保をしている。	2.0	0.25	-	-	
	4 廃棄物処理負荷抑制						R		—	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮								—	3.0	0.33	-	-	3.0
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止								—	3.0	0.40	-	-	
	1 騒音								—	3.0	0.50	-	-	
	2 振動								—	3.0	0.50	-	-	
	3 悪臭								—	-	-	-	-	
	3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制								風害対策に対する要請がない。	3.0	0.40	-	-	
	1 風害の抑制								—	3.0	0.70	-	-	
	2 砂塵の抑制								日影規制なし。	1.0	-	-	-	
	3 日照阻害の抑制								—	3.0	0.30	-	-	
	3.3 光害の抑制								—	3.0	0.20	-	-	
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策								広告物照明を行っていない。	3.0	0.70	-	-	
	2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策								—	3.0	0.30	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.1 維持管理に配慮した設計	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.3 電気設備	1.0	-	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.4.5 通信・情報設備	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	3.0	-	-	-	1.0	-	-	-	1.0	-	-	1.0	-	-	-
2 まちなみ・景観への配慮	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0	-	-	-	-	-	-	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上	6.0	-	-	2.0	-	2.0	-	-	-	-	-	2.0	-	-	-
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.1 材料使用量の削減	1.0	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0	-	○	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0	-	1.0	-	-	3.0	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.3 交通負荷抑制	1.0	-	-	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0	-	1.0	1.0	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.2.2 砂塵の抑制	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	2.0	-	-	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC - 窓の日射熱取得率(η) -	外壁 -	床 -
U値(W/m2K) 窓システム -	屋根 -	
住戸部分システムU値 -	外皮UA値 -	ηAC - ηAH -
昼光率 0.0%		
自然換気有効開口比 0.0%		

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース .0㎡ / 人 病床 .0㎡ / 床 シングル .0㎡ ツイン .0㎡	
コンセント容量 0.0 VA/㎡	
天井高 0 m	
リフレッシュスペース 0.0% レストスペース 0.0%	
想定耐用年数 0 年	
想定必要間隔 0 年	
想定必要間隔 0 年	
想定必要間隔 0 年	
階高 4.06 m	
壁長さ比率 19.0%	
床荷重 - N/m2	

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数 30% 建物緑化指数 0%	
空地率 64% 水平投影面積率 9% 地表面对策面積率 24% 舗装面積率 53%	

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m - 日射等性能等級 対象外 相当	
自然エネルギー直接利 0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数 0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%
	通風を満たす教室数 0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%
BPI/BPI _m 非住宅 0.89 住宅 - 太陽光 .0kW 太陽熱等 .0kW 蓄電池 .0kW	

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率 0.0%	
特定調達品Eビニル系床材エコマーク商品 -	自治体指定の特定品目等 -
使用比率 0.0%	
オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)	
オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)	
オゾン層破壊係数(C 地球温暖化係数(GWP)	

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比 85%棟間隔指標Rw 2.06	
地表面对策面積率 38.0% 屋根面对策面積率 #DIV/0! 外壁面对策面積率 #DIV/0!	
見付面積Sb 542㎡ 越風向と直交する最大敷地幅Ws 41.069 m 基準高さHb 15.45 m	
緑地 237㎡ 水面 ㎡ 保水性対策面 ㎡ 高反射対策面 ㎡ 再帰性反射対策面 ㎡	